

ベビーロック

Wチェーン・ステッチ&縁かがり

EA-505型

ご使用のてびき



糸立装置

押え調節ねじ

天秤

天秤糸かけ

押え上げ

針棒

糸巻き受板

押え棒

針止め

下側面カバー

底板

底板ゴム

取手形糸案内

下糸案内バネ

上糸調子器

面板

上メス

押え金

針板

縫代ゲージ

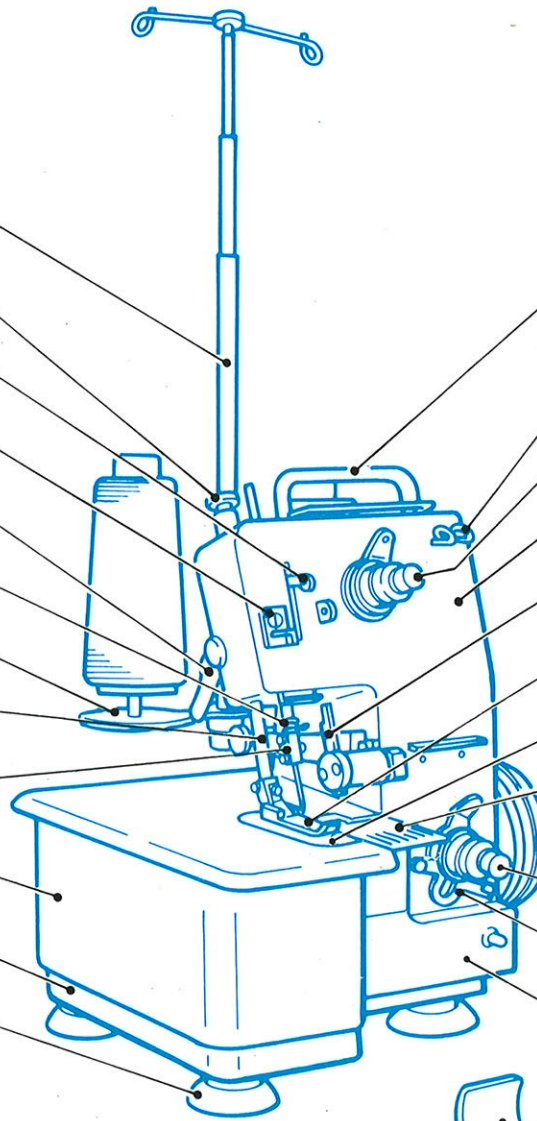
はずみ車

下糸調子器

テンション
切換えレバー

カバー台

メスカバー



はじめに

このたびは、ベビーロックEA-505型をお買上げいただきまして、ありがとうございます。EA-505型を最も有効に未永くお使いいただくために、この手引きをお役立て下さい。

目次

1. ミシンのセットの仕方	1
2. ● Wチェーン・ステッチ (地縫い) で縫うとき	4
2-1 糸のかけ方	
2-2 縫いについて	
3. 縁かがりをするとき	7
3-1 糸のかけ方	
3-2 縫いについて	
4. 糸調子のとり方	10
5. 押え圧力について	11
6. 送り目の調節について	11
7. 縫い速度について	12
8. 針のとりつけ方	12
9. メスの交換について	13
10. 注油について	14
11. 点検と調整について	14
12. 応用編	15
ニット用押え金のとりつけ方 (Wチェーン・ステッチ)	
● ミシンライトをつける場合 縫い目をほどく場合	
13. 付録	17
梱包明細	
モーターのカーボンブラシ交換に ついて	
14. EA-505型仕様表	18
15. 布地と糸の関連表	19



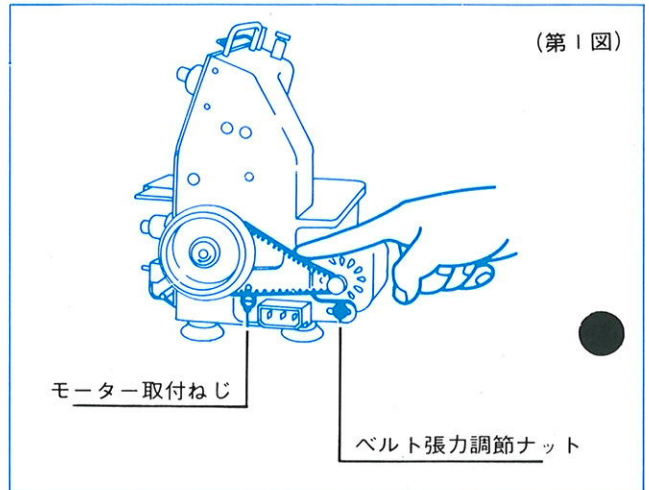
1 ミシンのセットの仕方

このミシンをお使いになるまえに、次の順序で正しくセットして下さい。

1-1 モーターの取り付け状態の確認

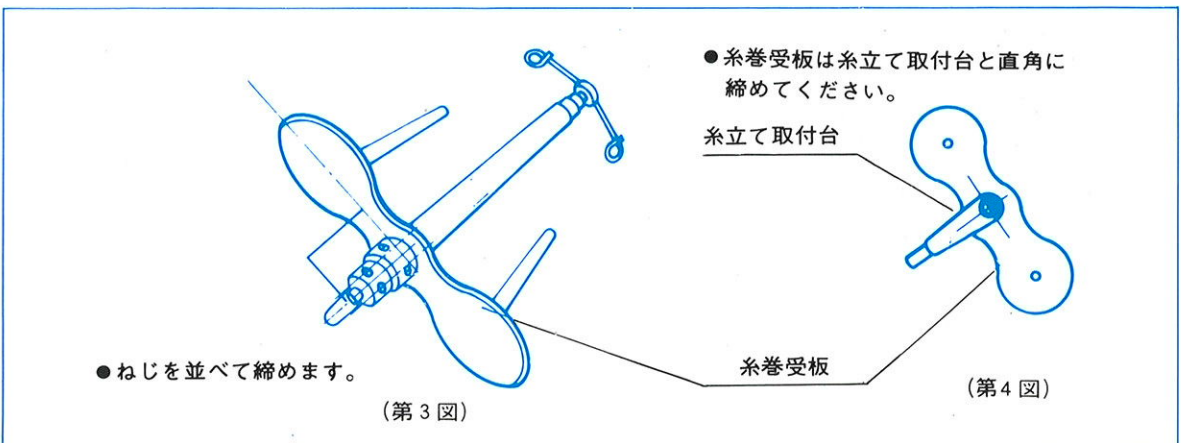
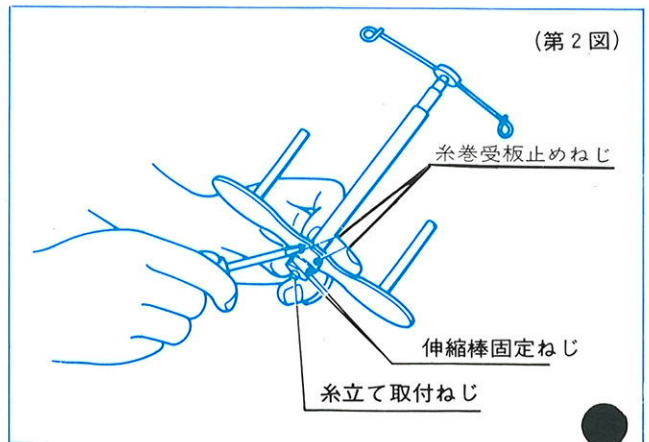
「第1図」のようにモーターが完全にとりつけてあるか確認します。

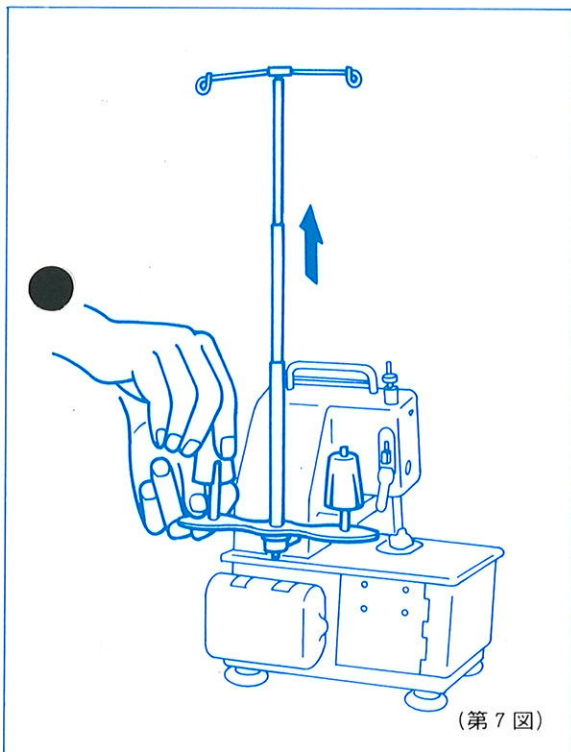
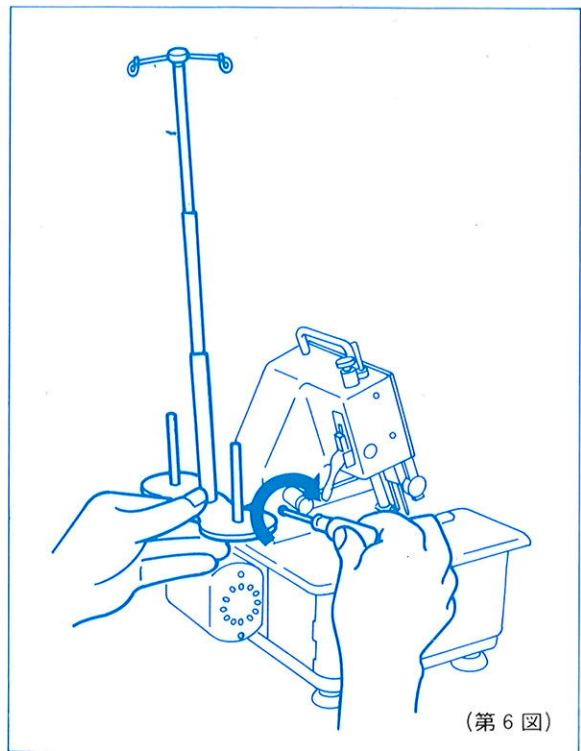
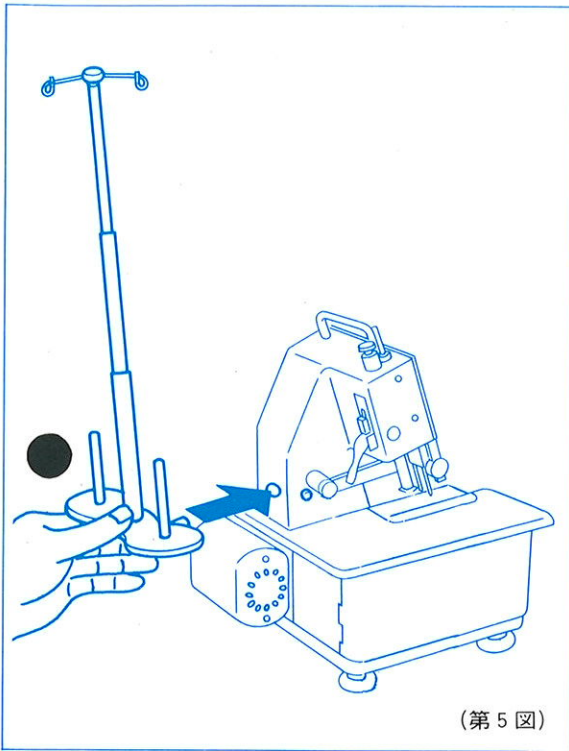
次にベルトの張力を調べます。ベルトの張力は、「第1図」のようにして指で押し、少したわむ程度が適当です。



1-2 糸立ての組み立て方

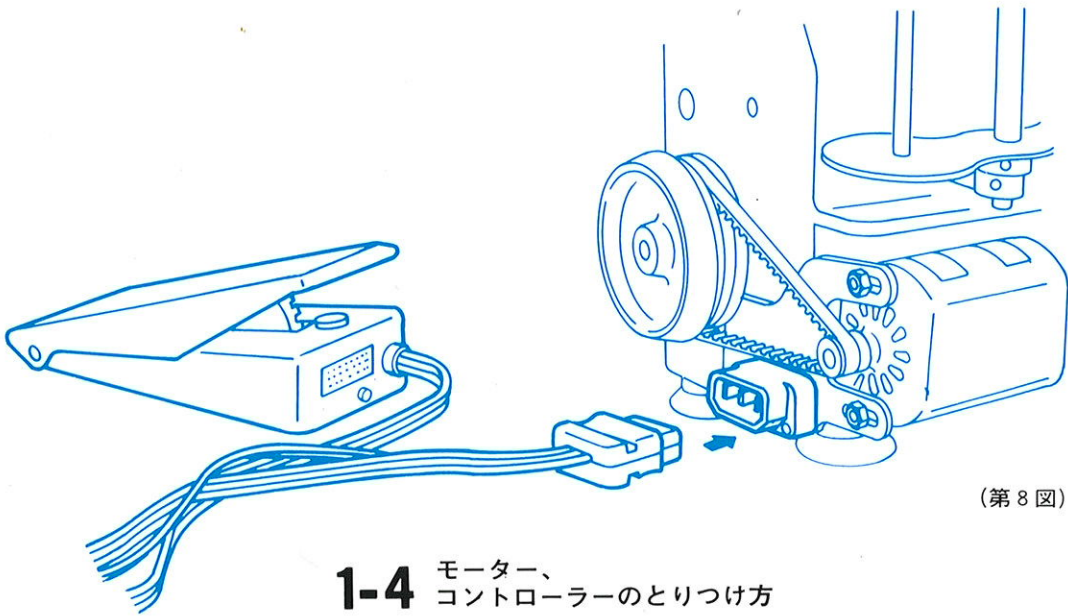
- ① 糸立て取付ねじを固く締めます。
- ② 次に伸縮棒固定ねじを固く締めます。
- ③ そして糸巻受板止めねじを伸縮棒固定ねじとほぼ並べて締めます。





1-3 糸立てのセットの仕方

次に「第5図」のように糸立てをミシンに差し込みヨコにある締付ネジで固定して下さい。最後にプラスチックの糸巻き受けを「第7図」のようにして糸立棒にそれぞれ差し込んで下さい。



(第8図)

1-4 モーター、 コントローラーのとりつけ方

「第8図」のようにして、コントローラーのソケットをセットします。

次にプラグを電源に差しこんでください。
このミシンは、ペダルを深く踏むと回転は速くなり、また浅く踏むと回転は遅くなります。

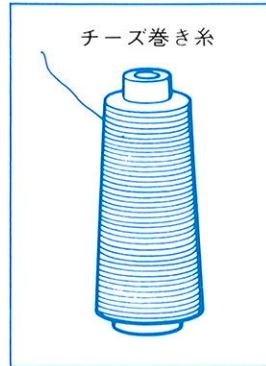
2

Wチェーン・ステッチ(地縫い)で縫うとき

2-1 糸のかけ方

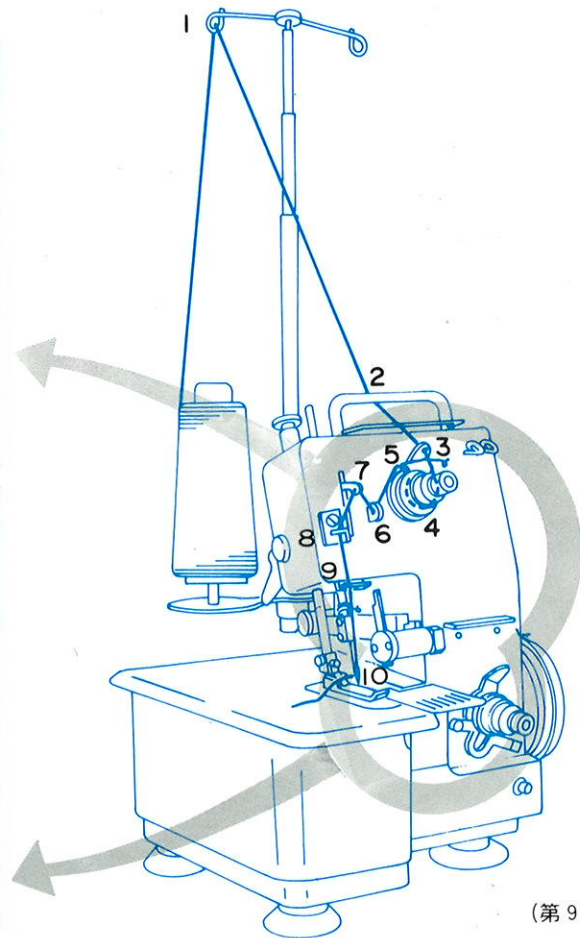
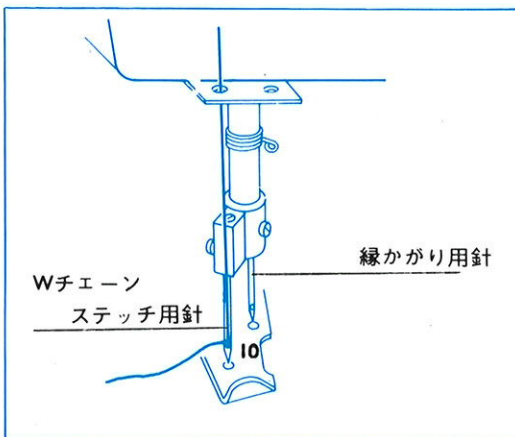
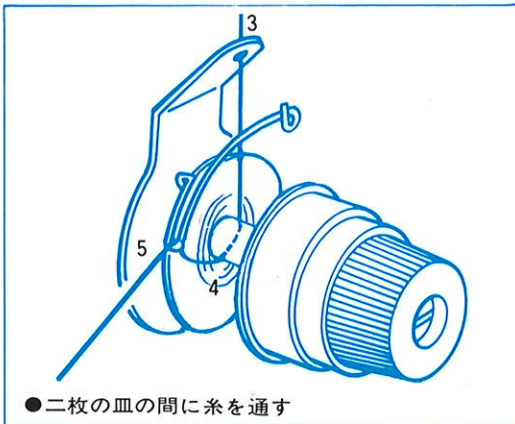
① 糸巻きのセット

このミシンには普通チーズ巻きの糸を使いますが、ボビン巻き糸もお使いになれます。この場合は、糸の巻き止め溝を下にしてセットしてください。



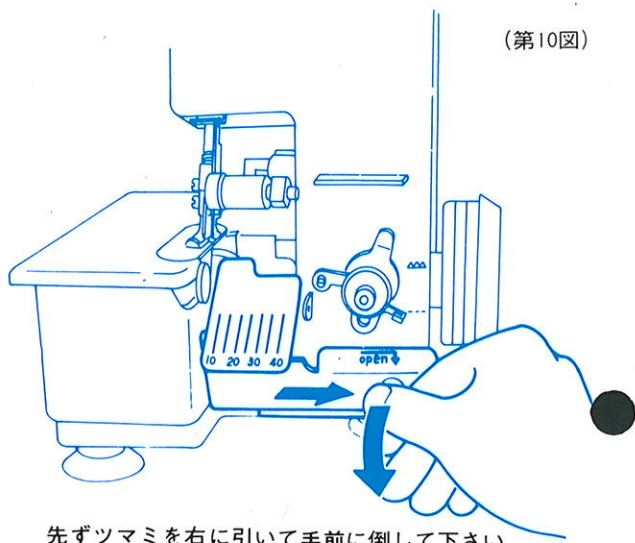
② 上糸のかけ方(針糸)

「第9図」のように順次通してください。針穴には、手前から向こう側に通して、糸を約10cmひきだしておきます。



(第9図)

(第10図)

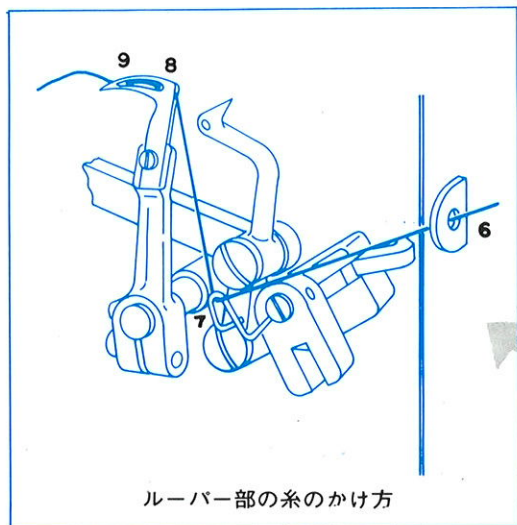


③ 下糸のかけ方(ルーパー糸)

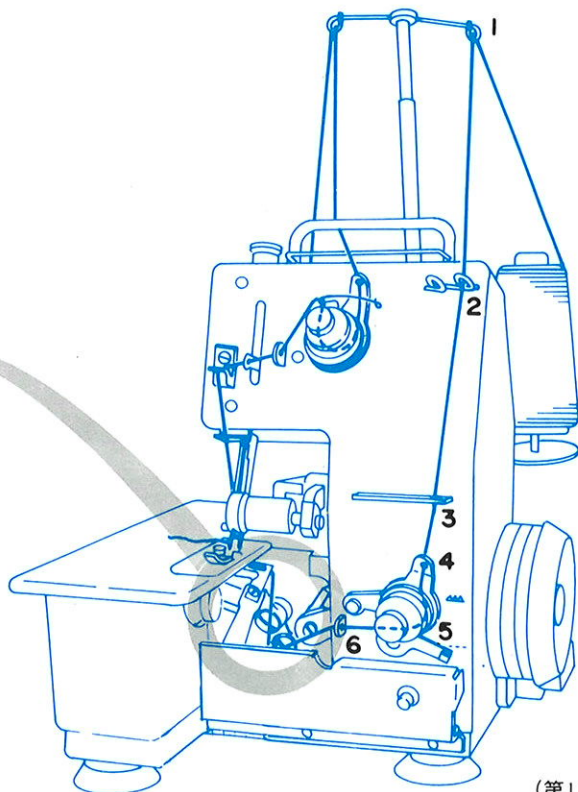
先ず「第10図」のように、メスカバー台を開きます。次に「第11図」のように、順次糸を通してください。糸通しが終わったら、メスカバー台は閉めてください。

下糸も、約10cmひきだしておきます。この場合、ひきだした糸は、そのままかまいません。(針板上面に、さらにひきだす必要はありません)

先ずツマミを右に引いて手前に倒して下さい



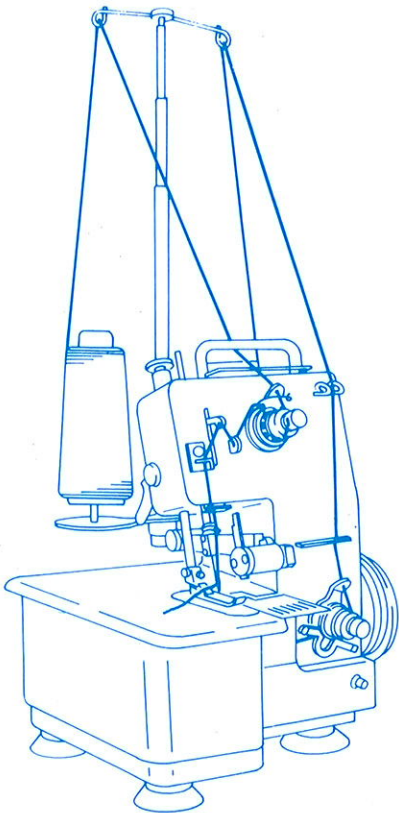
ルーパー部の糸のかけ方



(第11図)

2-2 縫う準備と点検

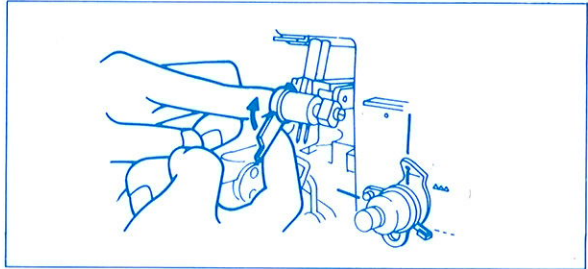
このミシンは、出荷のとき、各部のセット状態はWチーン・ステッチ用になっております。しかし、念のため次のような順序で点検してください。



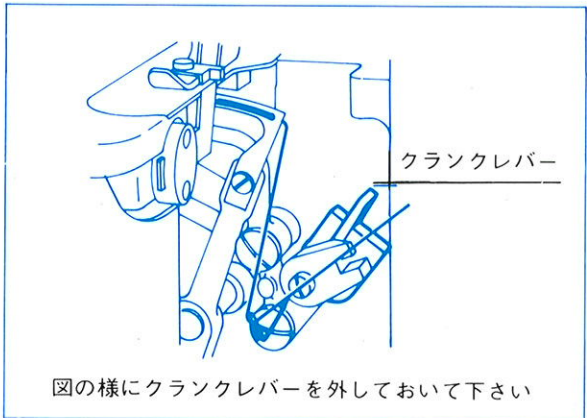
準備完了

(第12図)

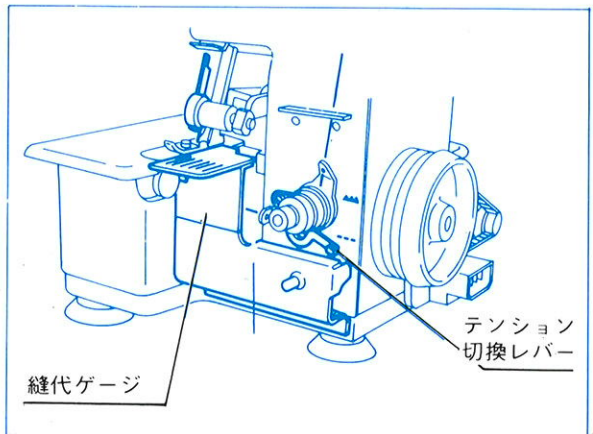
- ①上メスの刃先は、上に向いていますか。(布地を切断しない状態にしてあればよいのです)。



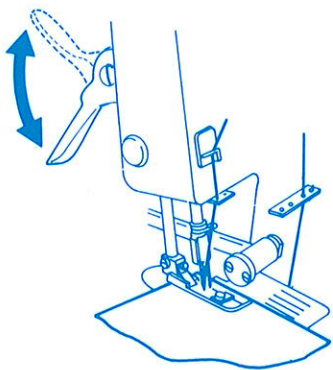
- ②クランクレバーを溝からはずしてありますか。



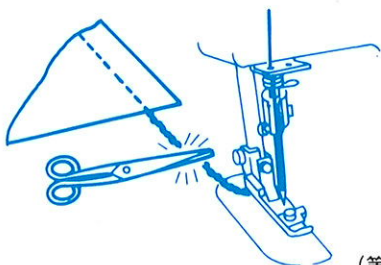
- ③メスカバー台に、縫代ゲージ板がセットされていますか。
- ④下糸テンションの切換えレバーは……印のほうにセットされていますか。



- ⑤糸のかけ方に、まちがないでしょうか。上下の糸とも、もう一度かけ方を点検してください。



(第13図)



(第14図)

2-3 縫いについて

- ①「第13図」のように布地をセットしてください。
縫いはじめの1針～2針は、とくにゆっくり送ってください。
- ②上糸と下糸のバランスが悪いと布地にしわがよったり、また縫い目がそろわなかったりします「糸調子のとり方」の項を参照してください。
- ③縫い終わりは、「第14図」のように布地の端から空縫いを3cm～5cm長くとり、切断します。空縫いの始末は、布地端で結ぶか、または布地がニット物の場合はカギ針などで折り直して止めてください。
縫い目を強く仕上げる場合は、同じ箇所を2回並べて縫ってください。

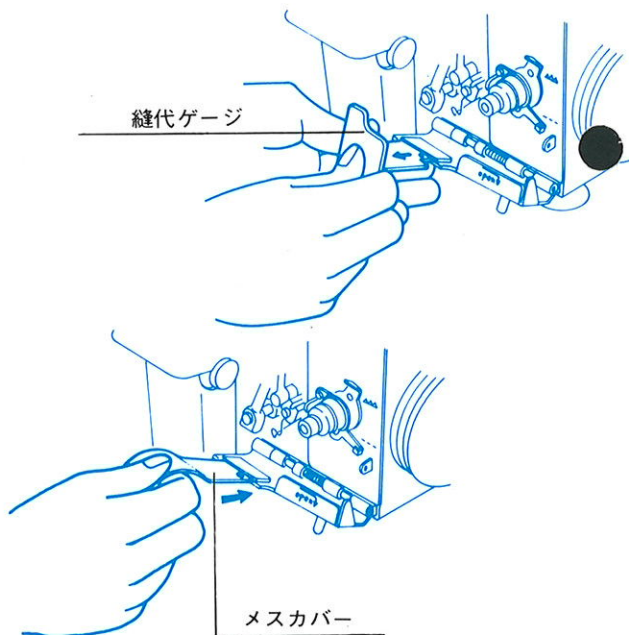
3 縁かがりをするとき

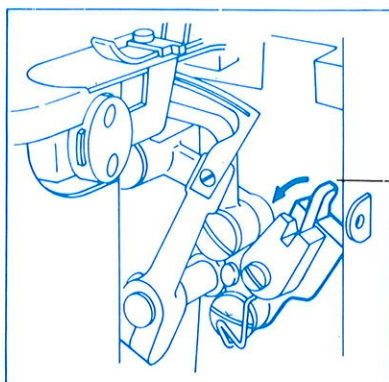
3-1 Wチェーン・ステッチから縁かがりへの切換え

Wチェーン・ステッチ用になっている各部の状態を、次の手順に従って縁かがり用に切換えてください。

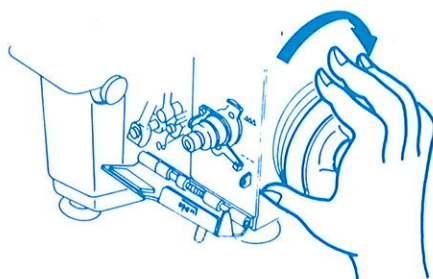
[切換え手順]

- ①メスカバー台を開き、縫代ゲージを抜きとり、メスカバーをセットしてください（赤丸印を同じ方向にセットします）。





クランクレバー

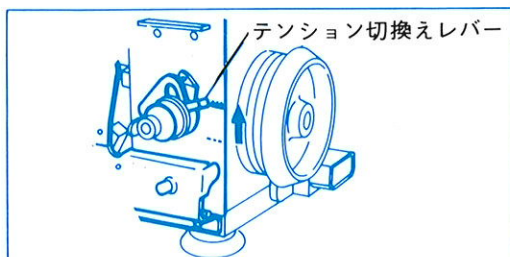


- ②はずみ車を手で回し、針が最も下がったところでクランクレバーを手前に倒してセットしてくださいこれで縁かがり用ルーパーが動きます。



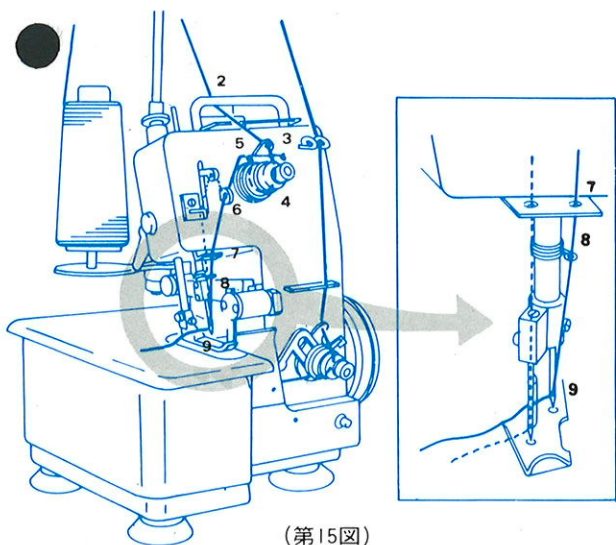
●左指で押しながらまわす

- ④上メスを手前に回わして、セットしてください。(布地を切断する状態になります。)



テンション切換えレバー

- ③下糸テンション切換えレバーを ▲▲ 印に合わせてください。



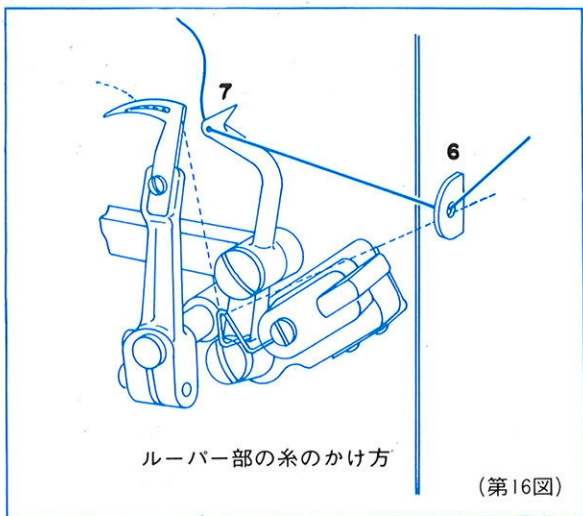
(第15図)

3-2 糸のかけ方

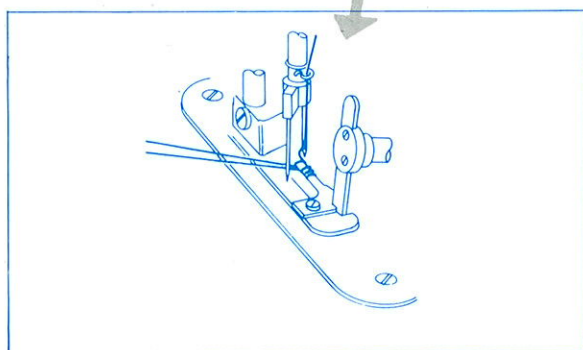
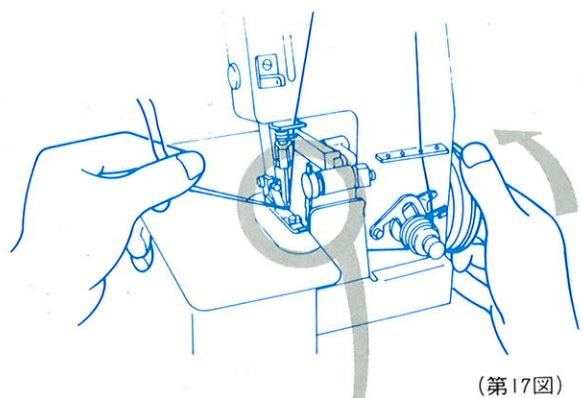
①上糸のかけ方

「第15図」のように、順次かけてください。針穴は手前から通して、糸を約10cmひきだしておきます。

糸かけは、途中までWチェーン・ステッチ用も、縁かがり用も共通にしています。



- ② 下糸のかけ方
 メスカバー台を開いて、「第16図」のように順次通してください。また、糸は約10cmひきだしておきます。糸通しが終わったらメスカバー台は閉めてください。



3-3 縫いについて

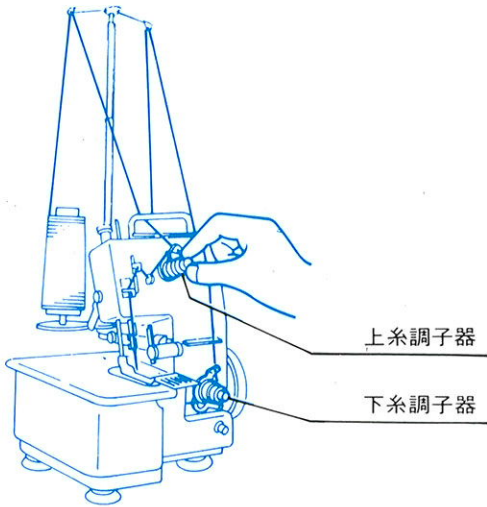
- ① 糸かけの終わった上糸と下糸の両端を「第17図」のように左手で少し張りぎみにつまみ右手ではずみ車を時計方向に回して両糸のからみぐあいを確認、それから布地をセットして縫いをはじめてください。
- ② 上糸と下糸のバランスが悪いと布地にしわができたり、縫い目が不揃いになることがあります。「糸調子のとり方」の項を参照してください

- ③ 縫い終わりは、「第18図」のように布地の端から空縫いを2cm～5cm長くとり切断してください。

4 糸調子のとり方

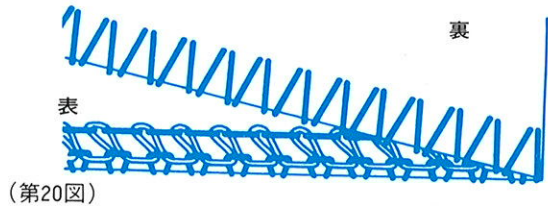
糸調子のとり方は、布地の種類や使用糸の太さ、種類によって違います。そのつど縫い目を見ながら上下の糸調子器で調節してください。

(時計方向に回すと、糸調子は強くなります)

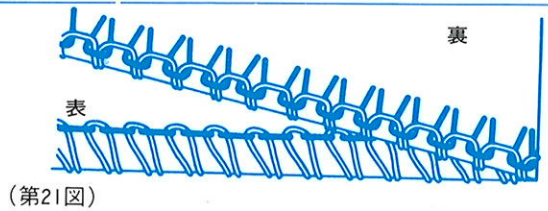


縁かがり縫い目調子のとり方

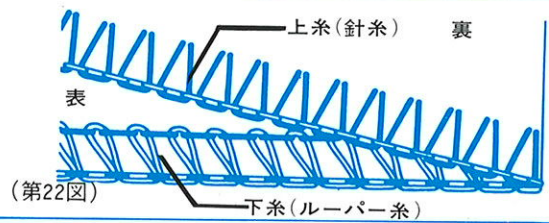
(A) 下糸が強すぎる場合



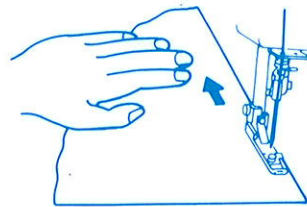
(B) 上糸が強すぎる場合



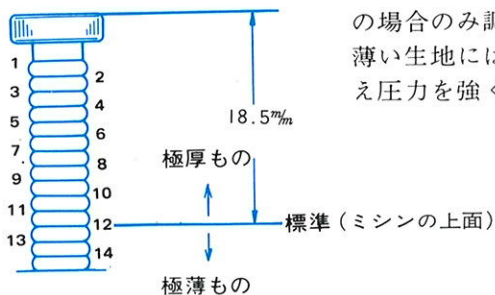
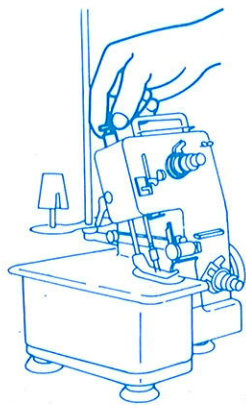
(C) 美しいかがり目



とくに薄物布地の場合、また編物など極厚物の場合は縫い終わり部分を左手で少しひきぎみにして縫うときれいに仕上がります



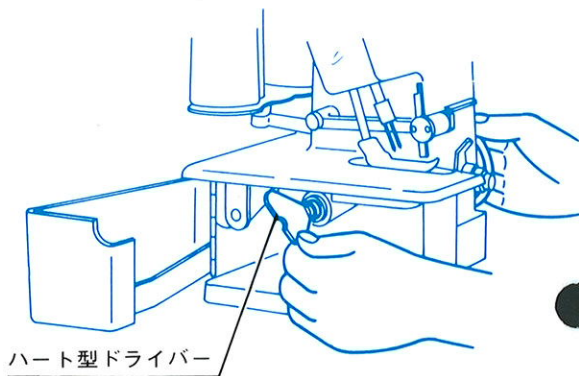
5 押え圧力について



このミシンは、すでに押え圧力を標準（中厚物用）に調節してあります。極薄物、極厚物の場合のみ調節してください。薄い生地には押え圧力を弱く厚い生地には押え圧力を強くします。

6 送り目の調節について

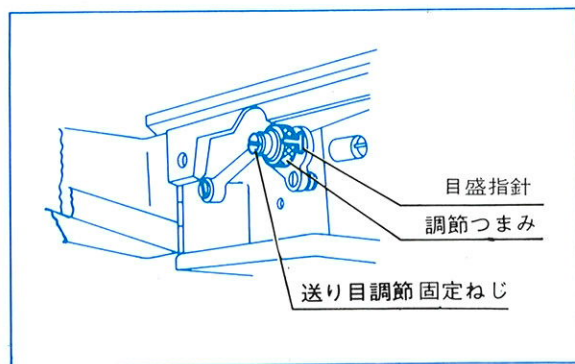
① 右手ではずみ車を押え、左手でハート形の専用ドライバーをにぎり、送り調節固定ねじをゆるめてください。ハート形ドライバーで押えたら、はずみ車を反時計方向に回すと固定ねじはゆるみます。



ハート型ドライバー

② 次に、調節つまみの目盛りを指針に合わせてください。つまみ目盛りの数字が大きくなるほど、縫い目は大きくなります。

③ 調節が終わったら、送り目調節固定ねじは固く締めつけてください。



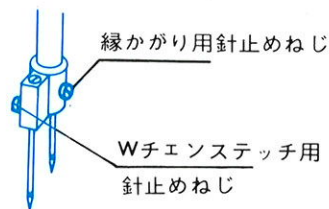
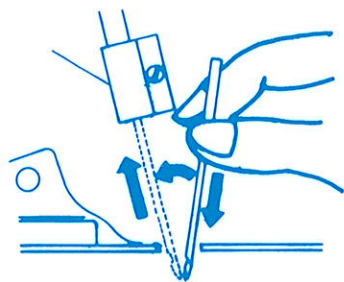
7 縫い速度について

このミシンで使用しているモーターは低速でも安定した速度制御ができる特殊構造のもので、コントローラーの踏み加減で速度を決めてお使いください。

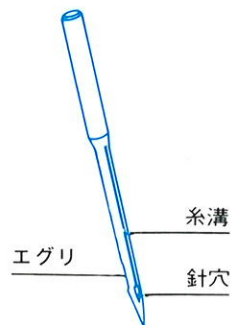
8 針のとりつけ方

このミシンはWチェーン・ステッチ用針も、縁かがり用針も共にDB×1 #14又は#11を用います。

- ①針をとりつけるには、最初にはずみ車を回し、針棒をいちばん上まであげます。
- ②次に針止めねじをゆるめて、最初に針先を押え金の針穴に差しこみ、それから針棒の針穴に奥まで差しこんでください。



- ③針止めねじは固く締めつけてください。針のとりつけ向きは、「第19図」のように正面から見て糸溝が手前になるように合わせてください。



(第19図)

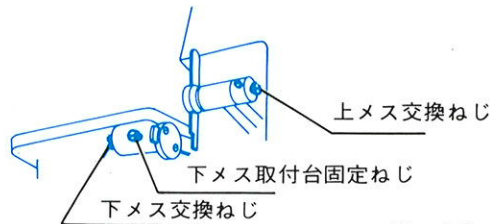
9

メスの交換について

はじめに必ず電源プラグを抜いてから作業してください。

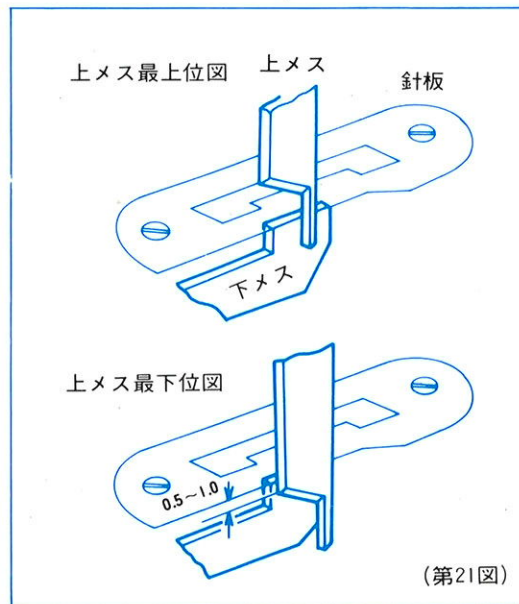
メスは消耗品ですので、切れなくなったら交換してください。

- ①上メス、下メス共にメス交換ねじをゆるめて行ないます。



(第20図)

- ②下メスのとりつけ位置は、「第20図」のように針板のメス溝に合わせて固定します。
- ③上メスの正常なとりつけ位置は、上メスが運動していちばん下がった位置のとき、上メス手前刃先が下メス刃先上面に対して0.5~1.0mmほど沈むように位置決めしてください。(第21図参照)



(第21図)

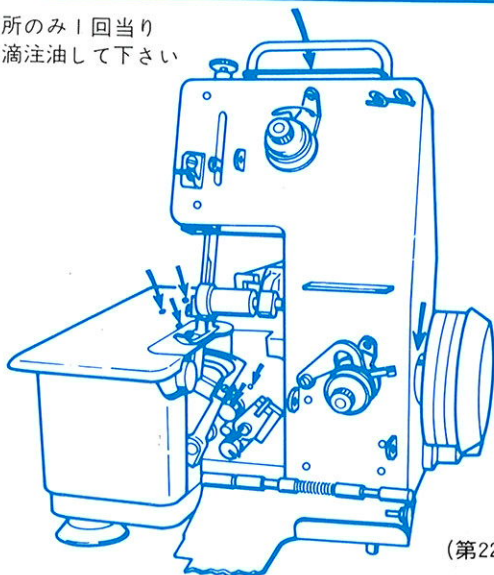
※メスの購入先
ミシン店、又は



このマークのお店で
お求めください

10 注油について

この箇所のみ1回当たり
5～10滴注油して下さい



(第22図)

このミシンの大切な個所には、すべて特殊な材料（含油メタル）を用いておりますので、あまり注油の必要はありません。また、本体内部には油芯を設置してありますので第22図の個所のほかに、ミシン外観から見て赤印のついている個所に1カ月に1～2回注油してください。1回の注油の量は1～2滴でいどにしてください。

11 点検と調整について

このベビーロックは、むつかしい専門的な調整をしないですむように設計されています。つぎのような5つの例は、基本的な調整ができていないときに起りやすい故障ですから、よく覚えておいてください。

A) ミシンが動かないとき

- コードをちゃんと差しこんでありますか。
- モーターの取付位置がズレていませんか。
- ベルトがゆるいものではありませんか。

B) 糸が切れるとき

- 糸かけは正しいですか。
- 糸調子が強すぎませんか。
- 針は曲っていませんか。
- 押えの強さは適当ですか。
- 糸の種類はどうですか。
- 針の取り付け方が、まちがっていませんか。

C) 針が折れるとき

- 針が、針板や押えにぶつかっていませんか。
- 針の取り付け方が、まちがっていませんか。

D) 目とびするとき

- 針が曲がっていたり、針先がすり減ったりしていませんか。
- 針を正しく取りつけましたか。
- 糸のかけ方が、まちがっていませんか。
- 押えが弱いものではありませんか。

E) 縫い目の調子が悪いとき

- 上糸、下糸の張力調整は、じゅうぶんですか。
- 糸のかけ方は正しいですか。

12 応用編

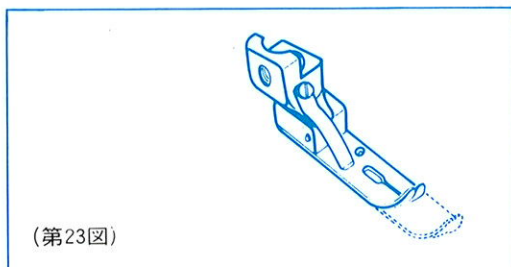
12-1 ニット用押え金のとりつけ方

(Wチェーン・ステッチの場合のみ使用する)

この押え金は、カーブの多い個所を縫うのにべんりです。

- ①最初に押え上げレバーを上げ、押え金止めねじをとりはずします。(第23図参照)
- ②次に押え金を交換し、針落ち孔が合っているかどうかを確認して止めねじを固く締めつけてください。

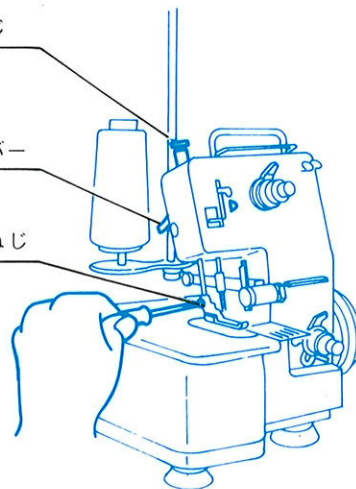
押え調節ねじを取りはずしてから交換するとカンタンです。



押え調節ねじ

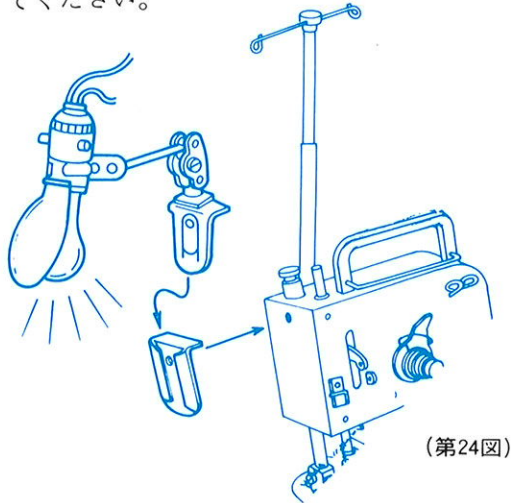
押え上げレバー

押え金止めねじ



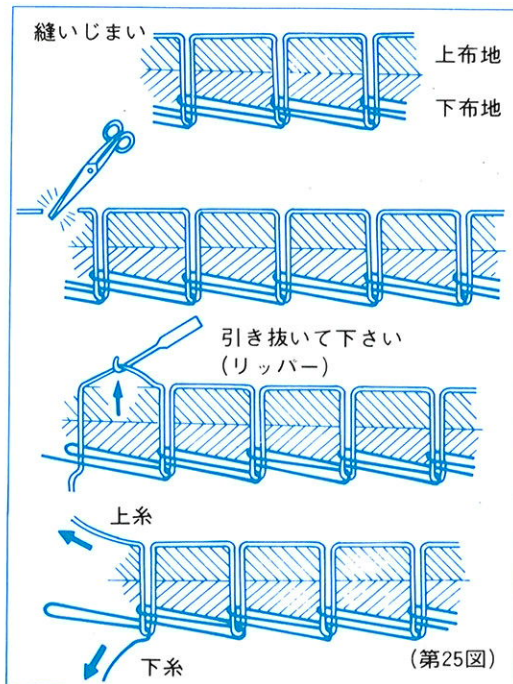
12-2 ミシンライトをつけるとき

ライトをお使いになる場合は、市販されているミシンライトを「第24図」のようにとりつけてください。



12-3 Wチエーン・ステッチの縫い目をほどく場合

縫い目をほどくには、縫いじまいのほうから「第25図」のようにして縫い糸を取り去ってください。

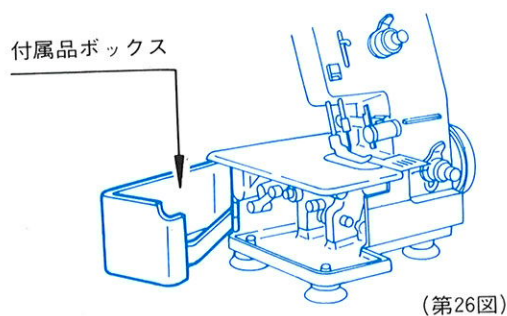


13 付 録

13-1 梱包明細

1. ミシン(モーター付)
2. ペダルセット一式
3. 頭部ビニールカバー
4. ご使用のてびき
5. 検査合格証
6. アクセサリー・ボックス
 - ドライバー (一用) 1 コ
 - ドライバー (十用) 1 コ
 - スパナ (モーターブラケット用) 1 コ
 - 針 DB×1 #14 10本
 - 上メス 1 コ
 - ピンセット 1 コ
 - 掃除用ブラシ 1 コ
 - 油差し (30cc入り) 1 コ
 - ハート型ドライバー (送り目用) 1 コ
 - メスカバー 1 コ
 - ニット用押え金 1 コ

第26図の下側面カバーのボックスにはお仕事の際に必要な付属品を入れてご使用ください。



13-2 モーターの カーボンブラシ交換について

このミシンに使用しておりますモーターにはカーボンブラシが2個（2カ所）取付けてあります。長時間お使い頂くと、摩耗しますから、図のようにカーボンブラシを交換してください。

A) 交換の時期

摩耗によってブラシ部分が〈カーボンブラシ図〉の様に短くなったら、交換して下さい。

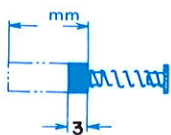
B) 交換の方法

最初にモーターを取り外します。次に〈モーター図〉のブラシキャップを各々取外し新しいブラシと交換してください。

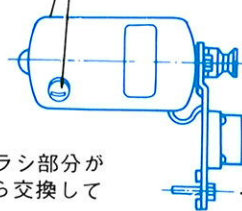
〔注意〕

摩耗したブラシを、そのまま使っていると、モーターから火花が出たり、又モーター故障の原因になりますから、ご注意ください。

カーボンブラシ図



ブラシキャップ(2ケ)



モーター取付ねじ

※摩耗により図の様にブラシ部分が3%程度になりましたら交換して下さい。

※カーボンブラシの購入先

ミシン店又は、電気器具店でお求め下さい

14 EA-505型仕様表

	Wチェーン・ステッチ	縁かがり
かがり巾	—	4 ^m / _m
縫い目(送り目)	1 ~ 6 ^m / _m	1 ~ 6 ^m / _m
針棒ストローク	27 ^m / _m	27 ^m / _m
メス上下量	6 ^m / _m	6 ^m / _m
押え上り量	5 ^m / _m	5 ^m / _m
送り歯高さ	0 ~ 1.3 ^m / _m (標準高さ 0.6 ^m / _m)	0 ~ 1.3 ^m / _m (標準高さ 0.6 ^m / _m)
使用針	DB×1 #14 #11	DB×1 #14 #11
使用糸本数	2本	2本

給油方式

油芯装置付、

ミシンの大きさ

タテ 250^m/_m ヨコ 250^m/_m 高さ 280^m/_m

ミシンの重さ

10kg (モーター付完成品)

15

布地と糸の関連表

No.	希地の種類	用途	糸の種類	縫い目長さ
1	薄地 (オーガンディー、薄ト リコット、タフタ、絹 クレープ、洋服裏地)	Wチエーン・ステッチ (地縫い)	綿#80~#100 絹#80~#100	2.0 ^m / _m ~3.0 ^m / _m
		縁かがり	綿#80~#100 絹#80~#100	3.0 ^m / _m ~4.0 ^m / _m
2	普通地 (木綿地、トリコット、 リンネル、サテン、一 般服地)	Wチエーン・ステッチ	綿#60~#100 絹#50~#100	2.0 ^m / _m ~3.0 ^m / _m
		縁かがり	綿#60~#100 絹#50~#100	3.0 ^m / _m ~4.0 ^m / _m
3	厚地 (ツイード、コート地、 デニム、厚手服地)	Wチエーン・ステッチ	綿#40~#60、絹#40~#60 テトロン糸、ウーリーナイ ロン糸	2.0 ^m / _m ~4.0 ^m / _m
		縁かがり	綿#40~#60、#40~#60 絹、テトロン糸、ウーリー ナイロン糸	3.0 ^m / _m ~5.0 ^m / _m
4	ニット地 (メリヤス、編地)	Wチエーン・スイッチ	綿#40~#50、絹#30~#40 テトロン糸、ウーリーナイロ ン糸、アングリヤ糸	2.0 ^m / _m ~4.0 ^m / _m
		縁かがり	ウーリーナイロン糸、テトロ ン糸 ※下糸は極細毛糸も使用可	3.0 ^m / _m ~5.0 ^m / _m

MEMO

